

0. 事業運営



第2期開始村でのベースライン調査(活動開始前の基礎調査)の様子。6タウンシップ264村にて、合計2,492人の5歳未満児の母親に対して聞き取り調査を行った。



ベースライン調査では妊婦検診の受診歴や子どもが病気の時の対処法など、母子の健康やケアに関する知識と行動について聞き取りを行う。第3期に実施するエンドライン調査結果と比較して、活動の効果を測定する。

1. ボランティアによるコミュニティ・ベースの保健栄養の教育



村での新生児・乳幼児のケアに関する保健知識の啓発セッションの様子。6タウンシップの第1期開始村および第2期開始村564村において、妊娠期の食生活や下痢の予防などをテーマとした啓発セッションを実施した。



啓発セッションには、妊産婦、母親や養育者、母子の健康行動に影響を及ぼす村のリーダー、父親、祖父母など、1回あたり平均57人が集まり、のべ167,838人(第1期開始村)、70,412人(第2期開始村)が参加した。



保健栄養に関する啓発セッションの様子。より多くの参加者を集めるため、村民が自宅にいる夜に行うことも。無電化の村ではろうそくの灯りをたよりに実施される。



啓発セッションでは、フリップ・チャートを用いる、ピックチャー・カードの教材を使う、パンフレットを配布するなど、参加者が理解しやすいように工夫を凝らした。



第1期、第2期の全対象村564村において、主要な小児感染症の危険徴候について、視聴覚教材を用いた啓発セッションを開催した。のべ20,714人(平均31人/回:第1期開始村)、14,896人(平均23人/回:第2期開始村)の5歳未満の子どもを持つ母親や養育者が参加した。



第1期、第2期の全対象村564村において育成したRH(リプロダクティブ・ヘルス)ボランティアが産前訪問を実施。妊婦宅を訪問し、妊婦の健康に関する相談にのったり、助産師の検診やサービスの利用を促したりするなど、地道な活動を継続している。

2. コミュニティでの疾病予防と母子保健ケアの提供



RHボランティア育成のための新生児ケア研修の様子。生まれたばかりの赤ちゃんの体温管理や感染症の予防などを含め、安全なお産について学んだ。



妊産婦ケア研修の様子。新生児ケア研修と妊産婦ケア研修を通して、515人のRHボランティアが育成された(第2期開始村)。第1期にて育成されたRHボランティアには強化研修を実施し、505人が参加した。



男性の参加に関する研修の様子。村の女性と子どもの健康改善には、男性の積極的な参加が不可欠。



CCM(コミュニティ・ケース・マネジメント)研修では、下痢や肺炎など一般的な小児疾患の応急措置や重症度の判断、また栄養指導など家庭での疾病予防とケアを習得する。写真は呼吸の数え方の実習。



CCM 研修の様子。医師である現地職員の指導で、515 人の CCM プロバイダー (CCMP) が育成された (第 2 期開始村)。第 1 期開始村の CCMP には強化研修を実施し、501 人が参加した。



男性と女性と一緒に、母子の健康改善について学んだ。RH ボランティア と男性の CCMP733 人が参加した (第 2 期開始村)。



体温計で子どもの体温を確認する CCMP。第 1 期、第 2 期の全対象村 564 村において育成した CCMP が、子どもの下痢や発熱などの応急措置を施している。



コミュニティ・ベースの活動において、新生児ケアに関して母親と祖母が適切な知識と理解をもつことが大切。

3. 医療専門家との連携による保健システムの強化



対象 6 タウンシップのある 3 地域の地域保健局と連携し、合計 111 人の助産師に対し、緊急産科ケア、新生児ケア、母乳・補助食の栄養指導に関する 10 日間の研修を実施した。第 1 期および第 2 期で、6 タウンシップのすべての助産師に対して研修を実施した。



タウンシップ保健局での医療従事者の継続学習支援の様子。毎月のセッションにて、主要な小児感染症への対処やリプロダクティブ・ヘルスなどについての継続学習を支援した。セッションには、6 つのタウンシップ保健局の医療従事者が平均 282 人/回参加した。



補助助産師研修の支援。保健省によって定められている研修は、6 か月間 (3 ヶ月間の講習と3 ヶ月間の実習)。すべての研修生が、病院に住み込みで共同生活を送りながら、研修を受ける。



補助助産師育成研修の結果、95 人の補助助産師の育成を支援した。



テゴン・タウンシップ、エーミエ村のサブ・ルーラル・ヘルス・センター(SRHC)における設置工事の様子



テゴン、クンジャンゴン、ソー、セダタラの各タウンシップに1箇所ずつSRHCを建設。地域住民の健康維持・促進の拠点として機能する

4. コミュニティでのケアの質の向上と定着



第2期開始の264村において、保健栄養に関する重要性に加え、事業の目的や活動内容に関するアドボカシー会合を実施。村リーダー、妊産婦、母親、父親など、12,045人の地域住民が参加した。



第2期開始村で結成した村の保健栄養チームの能力を向上させるため、リーダーシップ、マネジメント、行動計画に関するワークショップを実施。1,182人のチームメンバーが参加した。



ボランティアと助産師の月次指導ミーティングの様子。ボランティアたちによる活動内容をチェックしながら、適宜助言・指導を行う。



妊産婦と子どもの健康にとって、ボランティアと助産師の連携は不可欠。



地域住民による既存の保健センターの視察訪問の様子（保健センターに一度も行ったことがないという母親や地域住民が多いことを背景に、実際に訪問することで身近に感じてもらい、利用を促す）。



保健センターへの視察訪問を通して、保健センターで受けられるサービスの理解が深まったと共に、保健センターがより身近な存在となった。妊婦や5歳未満の子どもを持つ母親をはじめとする女性4,673人が参加した。